

急性糸球体腎炎

腎臓では、腎臓の中の細い血管が塊状になった**糸球体**から老廃物を尿として排泄しています。急性糸球体腎炎とは、この糸球体の血管に炎症が生じて、**蛋白尿**や**血尿**が出現するとともに、**浮腫**や**高血圧**などを起こす病気です。

急性糸球体腎炎は4歳～10歳くらいまでの子どもに多く、晩秋から寒冷期に多く発症します。ほかの腎臓病と異なって、ほとんどの場合完全に治癒します。細菌やウイルスなどの感染症がきっかけになりますが、最も頻度が高いのは、溶血性連鎖球菌（**溶連菌**）感染後の急性糸球体腎炎です。

咽頭炎や扁桃炎が治癒した約2週間後に血尿や蛋白尿、**むくみ（浮腫）**、高血圧、全身倦怠感などの症状が出ます。体重を量ると、急に増えていることに気づきます。高血圧のせいで頭痛を訴えたり、吐いたりすることもあります。重症の場合は、痙攣や意識障害を起こすことがあります。そのほか、尿量が減り浮腫が強くなると、肺水腫となり呼吸困難を呈したり、腎臓の働きが低下し、高カリウム血症を呈することもあり、一時的に**透析**が必要となることもあります。

浮腫や高血圧の強い時には安静が必要であり、入院して様子をみます。水分や塩分、蛋白質などの**食事制限**が必要となります。**高血圧**に対しては、降圧薬と利尿薬が用いられることもあります。一般的には、急性期を過ぎると、十分な量の尿がでるようになり、塩分の制限なしでもむくみがなくなります。血圧が正常化すれば安静を解除します。浮腫が消失し蛋白尿が減れば退院となります。

急性糸球体腎炎は、通常6か月くらいで尿所見は正常化します。退院後外来では、蛋白尿が消えるまでは体育などの**運動**は禁止します。蛋白尿が消えたら、たとえ血尿が残っていても幼稚園・保育園への登園は可能で、他の園児と同じ生活をして問題はありません。血尿は3～6か月間続きますが、蛋白尿が見られなければ運動を禁止する必要はありません。血尿が消失したら、治癒したと考えます。